

NewsLetter



自治医科大学地域医療オープン・ラボ Vol.182, Sep, 2023

縁が紡いだアクセプト

☆推薦文☆

今回一番うれしかったのは、学生時代の思い出が多い石橋先生が大きく成長した姿を見られたことです！さて、ケースレポート作成に慣れるまでは教育カンファのノリで症例をまとめてしまう、というトラップにかかりがちです。一人の臨床医の経験の中では珍しい疾患で、臨床的な Tips もたくさんあるけれど、集合知とも言える症例報告の世界では既に手垢が付きまくっている、というのは皆さんも多く経験されたことと思います。本症例に関しても類似の先行報告が複数あったため、既出文献の徹底的な読み込み、患者情報の再検討を念入りに行い、この症例だけの「珠」を磨くために何度もやり取りを行いました。忙しい臨床業務の中、遠方の病院に情報を取りに行き、諦めずにアクセプトまで持っていったことを素晴らしいと思います。今回初めての論文ということで、投稿作業や Revise のやり方についても学んで頂き、大変意義深い CRST 支援となりました。ありがとうございました。

自治医科大学 感染・免疫学 (感染症学部門) 笹原 鉄平

宗像市国民健康保険大島診療所 所長 石橋大樹 (福岡県 42 期卒業)

私は医師5年目の若輩でありながら、福岡県宗像市にある大島という人口約550人の離島の一人診療所に所長として勤務しています。その傍らで週に1回飯塚病院救急科で研鑽を積んでおり、今回はそこで経験した症例の論文を作成しました。

症例は第50回救急医学会総会で発表したもので、何とか論文報告したいと考えていました。論文に明るい福岡県の先輩である吉永亮先生に相談したところ、CRSTに協力を依頼することをご提案頂き連絡を取ったことが始まりでした。

当初CRST関係者の先生方の中では、同様の報告は複数あるため論文文化は難しいのではないか、という意見が大多数であったようです。その中でも論文作成のサポートに名乗りをあげて下さったのが、今回のメンターに当たる笹原鉄平先生でした。笹原先生は、私が学生の時にBBSとして新入生のお手伝いをしていたときから関わりがあり、学生時代から相談に乗って頂いたこともあり懇意にさせて頂いておりました。その縁もあり、論文文化が難しいことを承知の上でメンターを引き受けて下さったようでした。

論文作成で最も大変だったのは情報収集でした。カルテからの情報収集だけでなく、症例の治療に関わった科が、救急科・集中治療科・総合診療科・形成外科・口腔外科・病理科・画像診療科と多岐に渡ったためそれぞれ治療に関わった先生に面会のアポイントメントを取り、不明な点を何度も質問しに行かなければならず、週に1回の非常勤勤務の私としてはなかなか骨の折れる作業でした。最終的に着想からアクセプトまで約半年の時間がかかりました。

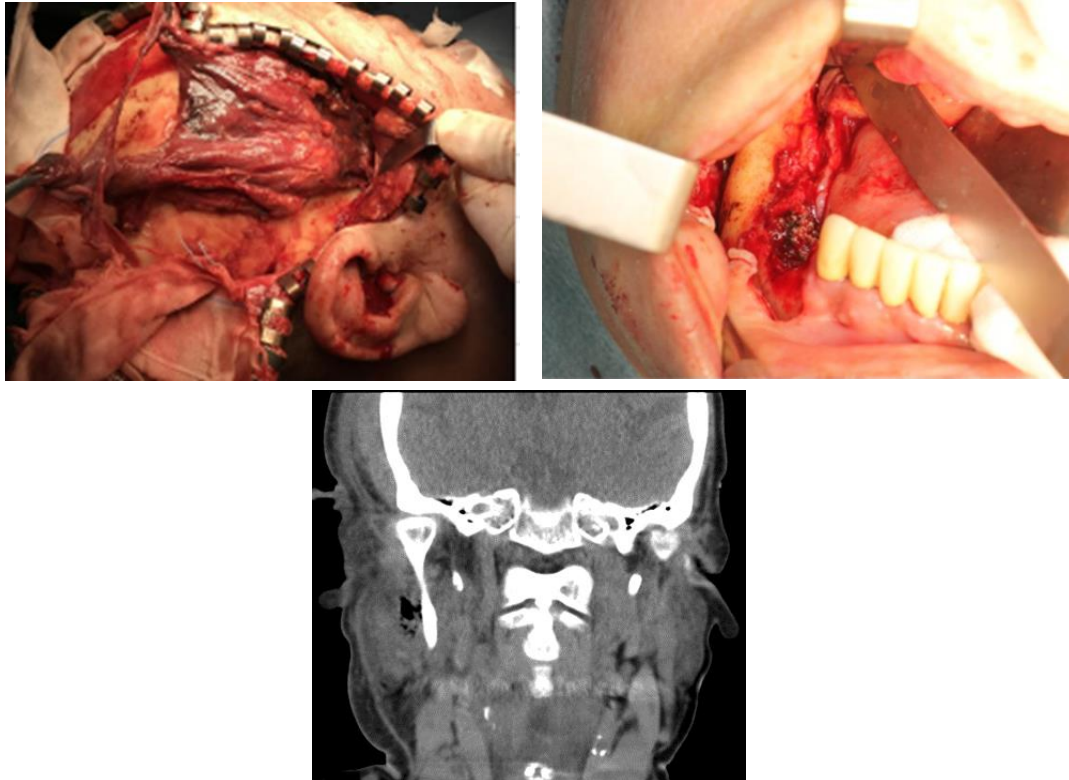
私にとって初めての論文作成であり、もしアクセプトに結びつかなかったとしても論文作成自体が今後の経験値となるよう、自分なりに試行錯誤しながら取り組みました。結果として論文作成の過程を学ぶことができた上に、日本内科学会の英文誌internal medicineに採択されることで本当によかったです。この結果に結びついたのは、ご指導いただいた笹原先生を始め、メールでやり取りをさせて頂いた



阿江竜介先生、松原茂樹先生など、多くの先生方のサポートがあったからだと感じています。ご多忙の中で貴重な時間を使ってご指導頂いたこと、ご支援頂いた先生方とのご縁に心から感謝を申し上げます。

【薬剤関連顎骨壊死(MRONJ)による側頭筋の壊死性筋膜炎】

Ishibashi H, Sasahara T, Katagiri O, Yamada T. Necrotizing Fasciitis with Medication-related Osteonecrosis of the Jaw. Intern Med 2023. doi: 10.2169/internalmedicine.2442-23.



特に歯科治療歴のない67歳女性。関節リウマチがありサリルマブ、骨粗鬆症でアレンドロン酸を内服していた。来院8週間前から右下顎痛があり増悪していった。来院当日は右下顎から右側頭部の疼痛・腫脹を主訴に受診した。

口腔内に下顎骨の露出がありMRONJと診断した。CTでは右側頭部に広がる皮下組織の腫脹とエアールを認め、緊急切開排膿術を行ったところ側頭筋の壊死があり壊死性筋膜炎と診断した。血液培養、手術組織から*Bacteroides pyogenes*を検出した。ベッドサイドで行った頻回のデブリードマン、適切な抗菌薬治療が奏功し生存退院した。

MRONJは歯科治療歴が最も一般的なリスクファクターであるが、本症例では歯科治療歴がなかった。また頭頸部は血流が豊富であるため壊死性筋膜炎を発症することが珍しく、側頭筋の壊死性筋膜炎はさらに希である。免疫抑制剤（サリルマブ）を使用していたことが感染を助長したと考える。

地域医療オープン・ラボNews Letter原稿募集

地域医療オープン・ラボでは、自治医大の教員や卒業生の研究活動を学内外へ発信するために、「自治医科大学地域医療オープン・ラボNews Letter」を定期的に発行しています。

<http://www.jichi.ac.jp/openlab/newsletter/newsletter.html>

- ☆ 自治医大の教員や卒業生の研究活動をご紹介ください
- ☆ 自薦・他薦を問いません
- ☆ 連絡先：地域医療オープン・ラボ openlabo@jichi.ac.jp

[発行]自治医科大学大学院医学研究科
地域医療オープンラボ運営委員会
事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1
TEL 0285-58-7476/FAX 0285-44-3625/e-mail openlabo@jichi.ac.jp
<https://grad.jichi.ac.jp/>